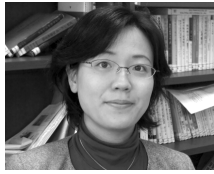


心理学 ミュージアム



横浜国立大学教育人間科学部准教授 鈴木朋子

Profile — すずき ともこ

2004年、横浜国立大学大学院工学研究科修了。博士（学術）。関西医科大学精神神経科学講座助手を経て、2009年より現職。専門は臨床心理学、心理学史。

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所 特別研究員

増田知尋

2005年、日本大学大学院文学研究科修了。博士（心理学）。立教大学アミューズメント・リサーチセンター プロジェクト研究員を経て、2008年より現職。専門は知覚心理学。

立教大学現代心理学部教授

長田佳久

1975年、名古屋大学文学研究科修士課程修了（心理学専攻）。立教大学文学部助手、助教授、教授を経て、2006年より現職。専門は実験心理学（知覚、比較認知）。

これは なに？



東京大学総合図書館所蔵資料。鈴木朋子・岡村宏美・木下利彦（2009）「三田谷啓によるビネ式知能検査の改訂」『心理学史・心理学論』第10/11巻合併号1-10頁より転載。

この古めかしい絵が入った箱は何でしょうか？ これは、日本で初めて発売された知能検査セットです。1916（大正5）年に『學齡兒童智力検査函』（三田谷啓 撰）として、南江堂より1円20銭で発売されました。当時の小学校教員の初任給が12～20円ぐらいだったことを考えると、なかなか高価なものだったことがわかります。

世界初の知能検査であるビネー&シモン式知能検査は、1905年にフランスで発表されました。知的水準を知るための客観的方法を必要とした人々によって各国に紹介され、その国の文化に合わせて改訂されました。有名な改訂版としては、アメリカのターマン（L. M. Terman）による「スタンフォード改訂増補ビネー・シモン知能測定尺度」（1916年）があります。日本では、田中ビネーや鈴木ビネーが有名ですが、他にも現在は使われない改訂版があります。写真の検査セットは、大阪府立高等医学校（現在の大阪大学医学部）を卒業した医者・三田谷啓みつた けいがつくったものですが、今は日本で数点しか残っていません。

『學齡兒童智力検査函』には、日本独自の工夫がみられます。描かれたものを言葉で説明する問題では、右の図のように、下駄を履き着物を着た人物が登場します。フランス原版ではどうかというと、荷車を引く男性と少年の絵が描かれています¹。このように被検者の子どもに合わせて検査課題を改訂する作業は、現在でも行われています。田中ビネーVの改訂を手掛けた筑波大学の大川一郎先生、桜花学園大学の中村淳子先生にお話をうかがうと、子どもの興味をひく絵をつくるために画家と何回も打ち合わせるなど、たいへんな苦勞をされたことがわかります。

知能検査は、多くの研究者や協力者の努力によってつくられたものです。そこには、実用・実践としての心理学についての思想がつまっています。しかしモノの常として、最新版が発表されると古い検査は忘れ去られてしまいます。そこで筆者は、古い検査をたずねて、知能検査というツールからみた日本の知能観と心理学の発展について研究を行っています²。数年後には、知能検査データベースをインターネットで公開する予定です。



『學齡兒童智力検査函』（三田谷啓撰，東京大学総合図書館所蔵資料。三歳の兒童 問五「繪畫を見せて，兒童が領解するや否やを検す」第三圖。

1 ビネー&シモン式知能検査の原版（1905）については、以下を参照。

http://www.persee.fr/web/revues/home/prescript/article/psy_0003-5033_1907_num_14_1_3737

2 科学研究費補助金（課題番号 22730535 「知能検査デジタルアーカイブ」の構築）